

総務建設委員会視察研修報告

○日時 平成 24 年 7 月 17 日（火）～ 19 日（木）

○研修先

この先、示される県第 4 次被害想定をふまえて、災害対策の計画に入る牧之原市にとって必要な事業と判断し、視察した。

岩手県山田町 災害廃棄物処理現場

岩手県内の災害瓦礫は、525 万トンだ。船越公園 30 万㎡に、36 万トンの災害廃棄物が集積されていた。

重機・自動選別機・手作業によって 7 種類に分別され、岩手県内の清掃センターやセメント工場、仮設焼却場で最大限の処理を実施している。

国の災害瓦礫処理期間は、3 年である。岩手県内の処理能力では 119 万トンが未処理になる。地元雇用者 120 名が作業に従事していた。

葛巻町 耕作放棄地の有効利用

すべて、農業委員会が勢力的に事業実施をしていた。主な事業としては遊休農地の実態調査を行い、遊休農地モデル展示園・あとつぎ隊事業・家庭菜園お助け隊事業などが行なわれていた。

葛巻町 クリーンリークエネルギー政策

風力発電所や木質バイオマスガス化熱電システム・公共施設 25 箇所に太陽光発電を設置し、個人向けの太陽光発電や太陽熱温水器、小水力発電設備などの設置にも補助金制度を備えていた。

大槌町 「いのちを守る防潮堤」

横浜ゴム㈱から 1 千億円の出資を受けての事業だ。土系不燃物と倒木や流木をベースに防潮堤を作り、地元の広葉樹を植える。処理コスト削減と津波対策が目的である。

防潮堤は、延長 50m、幅 15m、高さ 4m だ。2017 年までに 300m まで延ばす計画で、あくまで特例で地元限定施策であった。



岩手県山田町 災害廃棄物処理現場



大槌町 「いのちを守る防潮堤」



岩手県葛巻町 耕作放棄地の有効利用



葛巻町 クリーンエネルギー政策